

一般質問通告表

平成27年第1回始良市議会定例会（3月13日（金） 午後1時30分開会）

氏名	質問事項	質問の要旨	質問の相手
1. 鈴木 俊二	1. 地元商工業の活性化について	<p>本年2月12日に開催された全員協議会において、通称「イオンタウンあいら」が平成28年春に第1期のA敷地分が開業し、翌年29年春には第2期のB敷地が開業する予定だとイオンタウン株式会社の担当者から説明があった。そしてすべての開業時に1,500人程度の雇用となるとのことであった。</p> <p>市民にとって待ち望んでいた開業がやっと見えてきた。そして1,500人の雇用はありがたい限りである。私もうれしく思っている。しかし、地元商工業の方々は戦々恐々の状態である。不安を抱えながらも、共存・共栄を目指し、今、できることを模索しているところだと思う。そこで平成26年第3回定例議会において私が一般質問した質問事項「地元商工業の活性化について」の回答の中で、2点について検討及び進めるとの回答があった。その2点についてその後の進捗状況とその他以下について問う。</p> <p>(1) 利子補給事業の答弁で検討を進めるとのことであった。商工業育成資金補給補助金として27年度予算に出ていたが、補給条件など検討の経緯またその条件内容について問う。</p> <p>(2) 商工業育成資金補給補助金は近隣の自治体の類似する施策とどのような違いがあるのか示せ。</p> <p>(3) ワオンカードについて、商工会などから意見等を聞きながら進めたいとの回答があった。その後、商工</p>	市長

氏 名	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手
	<p>2. 青少年育成（国際交流関連事業）について</p>	<p>会内の商業部会において一度会議を持ったが、その後の進捗状況について問う。</p> <p>(4) 現在の始良市の失業率と雇用の状況はどのようになっているか。また通称イオンタウンあいらの開業後、地元商工業の雇用は大変難しくなり積極的な支援が必要と考えるが、市長の考えを問う。</p> <p>第5次始良市実施計画において国際感覚を育む交流活動の推進とあり、国際協力機構と連携し海外の様子など知識の普及を図るとあるが、どのようなものを想定しているのか以下について問う。</p> <p>(1) 平成25年度に「あいら未来特使団事業」としてニュージーランドへ生徒・児童を派遣しているが、この事業は今後も続けていくのか、またそれ以外の事業なども計画しているか問う。</p> <p>(2) 国際交流の在り方について、派遣だけではなく来日している方々との交流の在り方について考えを問う。</p>	<p>教育委員長</p>
	<p>3. 有機農業振興について</p>	<p>始良市はオーガニックアイラ、また有機の郷「あいら」と銘を打って、新規就農者支援事業、農業者育成資金、環境保全型農業直接支払交付金事業などの事業を行い有機農業振興に力を入れているが、今後の振興の方向性について以下に問う。</p> <p>(1) 平成25年1月、JICAを通じてネパール王国から生産者ら24</p>	<p>市長</p>

氏 名	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手
		<p>名が、また同じく平成25年9月に国際ロータリーを通じてドイツよりキャロリン・ウルリッヒさんを代表とする生産者ら5名が来日し研修を行っているが、この研修で得たものは何があったか問う。</p> <p>(2) 有機農業振興について今後の研修の在り方や産業としての方向性をどう捉えているか問う。</p>	
2. 東馬場 弘	1. 施政方針について	<p>平成27年第1回定例会での施政方針の基本方針、主要施策において次のことについて問う。</p> <p>(1) 「都市計画に基づくまちづくり」で、中心地付近に医療・保健・公共施設が集中しているので、コンパクトシティのシステムを取り入れ易いとある。新庁舎の位置が始良庁舎を念頭に置いているのか問う。</p> <p>(2) 「人口移動の活性化」で、スポーツや文化活動、観光を通じて、始良市内で過ごしていただくことが重要で、新たな交流の機会が地域振興に繋がればと述べてある。これは「宿泊施設のない始良市」を憂えているのか問う。</p> <p>(3) 子育て支援で「3歳以上の子どもが利用できる場所を」が27年度開設されるとあり、大変結構な政策と思うが、内容を具体的に問う。</p> <p>(4) 「豊かな人間性を育むまち」で、平成32年度に開催される第75回国民体育大会に向け、新たに弓道場整備事業及び体育施設備品購入事業を掲げ、各スポーツ施設を拠点としてスポーツの振興、充実を図るとあるが具体的な内容を問う。</p>	市長 教育委員長

氏 名	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手
	<p>2. 地方創生の取組 みについて</p>	<p>(5) 「快適で暮らしやすいまち」で自主防災組織の結成の促進と既存の組織の充実、強化に努めるとある。現在の組織率、方策及び課題を問う。</p> <p>(6) 交通安全対策事業で、高齢者や園児、児童、生徒を対象とした交通教室の充実とある。2月12日いちき串木野市の市道で通学途中の児童2人が軽自動車にはねられ1人死亡、1人重体という痛ましい事故があった。しかも横断歩道上での事故で、児童に何の落ち度もないものであった。交通弱者を保護するのは運転手ともいわれる。関係機関との協議は当然だが、新たな交通教室や登下校の交通安全指導対策を問う。</p> <p>鹿児島県は地方創生に関連する事業として、3月補正予算案や2015年度当初予算案に、「まち・ひと・しごと創生事業費」などを活用して203事業、213億6600万円を計上した。</p> <p>また、鹿児島市も2015年度から政府が推し進める地方創生に対応するため、政策企画課内に「地方創生推進室」「総合教育会議」を設置すると先日の新聞に掲載されていた。</p> <p>先日の本会議の行政報告、提案理由説明で「まち・ひと・しごと創生総合会議」策定に触れていたが、取組みにあたっての具体的な事業費やビジョン等について問う。</p>	<p>市長 教育委員長</p>
	<p>3. 木田弥勒地区交 差点への信号設置に ついて</p>	<p>(1) 県道川内・加治木線の弥勒地区の中央付近で、横断歩道のある交差点は朝夕交通量が多く、歩行者の</p>	<p>市長</p>

氏 名	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手
	<p>4. 高齢者の健康増進について</p>	<p>横断も厳しい。また、弥勒地区から左折と右折や反対側となる消防署方面から県道へ出るときの左折と右折が通勤時間帯において非常に困難な状態である。これまでに事故も発生しており、この地域から信号機の設置を望む声があるが、押しボタン式など信号機設置はできないか問う。</p> <p>(2) 信号機設置の基準を問う。</p> <p>(3) 市内での信号機の設置要望に対し、設置実績は年間何件か問う。</p> <p>高齢者の健康増進を図るため、対象70歳以上の希望者に温泉保養券、はり・きゅう・マッサージ施術券を交付しており、多くの方が利用して喜ばれている。</p> <p>一方で介護保険利用を抑制し、膝・腰に負荷をかけない健康スポーツとして、水泳に取り組んでいる高齢者の方もいる。このような人たちにも温泉保養券などと同様に高齢者プール等施設利用助成として取り組めないか問う。</p>	<p>市長</p>